

保育学生の子ども観・保育観と幼稚園教育実習との関係

湯地宏樹(鳴門教育大学)

1. はじめに

大学全入時代、学士の質保証を求める声が強まっている中、保育者養成校として育てるべき資質・能力は「学士力」や経済産業省の「社会人基礎力」とはどう関係しているだろうか。大学では、「何を教えるか」から「何ができるようになるか」が求められている。保育者の資質としては、「知識・理解」及び「技能」だけでなく、「思考・判断・表現力」や「態度・志向性」が強調されているといえよう。

表 1 学士力の構成要素(社会人キャリア力及び学習指導要領との比較)

学士力(中教審、H20.12.24)		旧学習指導要領(H14~)	新学習指導要領(H23~)	社会人キャリア力	
【総合的な学習経験と創造的思考力※】	【知識・理解】	(1)多文化・異文化に関する知識の理解	【知識・理解】	【知識・理解】	時事問題
		(2)人類の文化、社会と自然に関する知識の理解			社会マナー
	【汎用的技能】	(1)コミュニケーション・スキル	【技能・表現】	【技能】	発信力、傾聴力、日本語力
		(2)数量的スキル			計算力
		(3)情報リテラシー			
		(4)論理的思考力	【思考・判断】	【思考・判断・表現】	課題発見力、創造力
		(5)問題解決力			計画力
	【態度・志向性】	(1)自己管理能力	【関心・意欲・態度】	【関心・意欲・態度】	実行力
		(2)チームワーク、リーダーシップ			柔軟性、状況把握力、ストレスコントロール力
		(3)倫理観			規律性
		(4)市民としての社会的責任			働きかけ力
		(5)生涯学習力			主体性

『平成22年度大学教育・学生支援推進事業【テーマA】(大学教育推進プログラム)スキをスキルにする保育者養成プログラム—短期大学士(幼児教育)の質保証を目指して—報告書』より

しかし、子ども観や保育(教育)観などの態度・志向性は教育可能だろうか。果たして、教育目標に掲げているような「豊かな人間性」はどのように育成すべきなのだろうか。こうした保育者の資質として必要な子ども観の変容について調査し、その形成過程を明らかにしていくことが本研究の目的である。

2. 研究方法

- (1) 調査対象: H 短期大学の保育学生 99 名。
- (2) 調査時期: 2010 年 4 月(入学直後・1 年次実習前)、2010 年 7 月(1 年次実習後)、2011 年 7 月(2 年次実習後)に実施した。
- (3) 調査内容: ①子どものイメージに関する「明るい—くらい」「あたたかい—つめたい」などの 41 項目(岡田(2006)と星野・日瀨・吉田(2008)の用いた項目を引用)。1~7までのスケールで聞いた。
②子ども観や保育観や子どもの援助等に関する設問 31 項目(森・大元・西田・植田、1984; 森・大元・植田・西田、1985; 森・植田・大元・西田・湯川、1986 を引用、加筆)。

3. 調査結果

(1) 子どもに対するイメージの変容

保育学生の子どもに対するイメージは、「元気な」「好奇心の強い」「明るい」「かわいらしい」「生き生きした」など明るくて元気なイメージが強い(表1)。実習前後で有意差がみられた項目は、「扱いやすい—扱いにくい」(F(2,273)=6.80,p<.01)、「言うことを聞いてくれる—言うことを聞いてくれない」(F(2,273)=7.34,p<.01)、「落ち着いた—落ち着きのない」(F(2,273)=5.55,p<.01)、「おとなしい—いたづらな」(F(2,273)=4.04,p<.05)、「のんびりした—こせこせした」(F(2,273)=3.93,p<.05)、「ひとつつつこい—ひとみしりする」(F(2,273)=7.67,p<.01)、「敏感な—鈍感な」(F(2,273)=3.22,p<.05)であった。

表2 実習前後における子どものイメージに関する項目の比較

**p<.01 *p<.05

	A	B	C	F 値	A-B	A-C	B-C
	1年4月	1年7月	2年7月				
明るい—くらい	1.39	1.38	1.39	0.009			
あたたかい—つめたい	1.80	1.54	1.62	2.675			
扱いやすい—扱いにくい	4.21	3.63	3.90	6.803	**	*	
安定した—不安定な	4.11	3.84	3.82	2.370			
言うことを聞いてくれる—言うことを聞いてくれない	4.00	3.52	3.49	7.339	**	*	*
生き生きした—元気のない	1.42	1.47	1.42	0.118			
意欲的な—無気力な	1.52	1.52	1.65	0.932			
落ち着いた—落ち着きのない	4.43	4.01	3.92	5.550	**	*	*
おとなしい—いたづらな	4.85	4.52	4.45	4.043	*		*
外交的な—内向的な	2.62	2.54	2.69	0.423			
活発な—活発でない	1.49	1.73	1.78	3.142	*		
かわいげのある—生意気な	1.62	1.53	1.54	0.325			
かわいらしい—にくたらしい	1.39	1.29	1.38	0.652			
きちんとした—だらしない	2.90	2.90	3.01	0.434			
気持ちのよい—気持ちの悪い	1.91	1.99	1.84	0.566			
行儀のよい—行儀の悪い	3.20	2.93	3.02	1.653			
元気な—疲れた	1.16	1.30	1.30	1.734			
現実的な—空想好きな	4.17	3.76	4.05	1.280			
好奇心の強い—好奇心の弱い	1.35	1.57	1.56	2.604			
静かな—うるさい	4.68	4.41	4.34	2.668			
従順な—わがままな	3.86	3.57	3.63	1.801			
正直な—うそつきな	2.18	2.11	1.91	1.623			
自立心のある—依存心の強い	3.51	3.12	3.14	2.665			
親切な—いじわるな	2.39	2.28	2.20	0.897			
好かれる—嫌われる	2.26	1.97	1.98	2.668			
素直な—強情な	1.77	1.73	1.61	0.751			
鋭い—鈍い	2.32	2.48	2.28	0.853			
積極的な—消極的な	1.89	1.90	1.91	0.013			
たくましい—弱々しい	2.21	2.46	2.35	1.138			
たのしい—たよりない	2.57	2.63	2.41	0.867			
強気な—弱気な	2.36	2.58	2.58	1.393			
伝達力のある—伝達力のない	3.15	3.38	3.24	1.110			
のんびりした—こせこせした	3.46	3.13	3.00	3.931	*		*
ひとつつつこい—ひとみしりする	2.74	2.15	2.26	7.669	**	*	*
敏感な—鈍感な	2.21	2.38	2.02	3.223	*		*
まじめな—ふまじめな	2.92	2.96	2.68	1.561			
愉快的な—不愉快的な	1.71	1.95	1.72	2.355			
よい—悪い	1.60	1.51	1.51	0.348			
陽気な—陰気な	1.63	1.75	1.70	0.450			
理解力のある—理解力のない	2.80	2.82	2.70	0.364			
理性的な—感情的な	4.53	4.18	4.04	2.126			

(2) 子どもに対するイメージの特徴

子どもに対するイメージに関する 41 項目について因子分析(表2)を繰り返し行った結果、<明朗快活性><自己中心性><自立性>と命名できる3因子を抽出したときに最適解が得られた(「外交的な—内向的な」「活発な—活発でない」「きちんとした—だらしない」「自立心のある—依存心の強い」「親切な—いじわるな」「鋭い—鈍い」「積極的な—消極的な」「のんびりした—こせこせした」「ひとなつつこい—ひとみしりする」「敏感な—鈍感な」「まじめな—ふまじめな」「愉快的な—不愉快的な」「陽気な—陰気な」は分析から除外した)。

表3 子どもに対するイメージに関する因子分析の結果(バリマックス回転後の因子行列)

	I	II	III
かわいらしい—にくたらしい	0.704	0.085	0.000
生き生きした—元気のない	0.694	-0.075	0.166
気持ちのよい—気持ちの悪い	0.691	0.003	0.130
意欲的な—無気力な	0.652	0.000	0.153
かわいげのある—生意気な	0.644	0.139	0.020
あたたかい—つめたい	0.637	0.105	0.021
好奇心の強い—好奇心の弱い	0.623	-0.018	0.123
元気な—疲れた	0.621	-0.097	0.273
明るい—くらい	0.615	0.007	0.251
好かれる—嫌われる	0.565	0.108	0.125
よい—悪い	0.544	-0.090	0.191
正直な—うそつきな	0.519	0.253	-0.051
素直な—強情な	0.461	0.202	-0.042
おとなしい—いたづらな	-0.110	0.768	-0.114
落ち着いた—落ち着きのない	0.050	0.752	0.078
静かな—うるさい	-0.061	0.720	0.031
安定した—不安定な	0.108	0.678	0.226
言うことを聞いてくれる—言うことを聞いてくれない	0.290	0.673	0.073
扱いやすい—扱いにくい	0.183	0.645	0.019
従順な—わがままな	0.152	0.639	0.178
理性的な—感情的な	-0.110	0.531	0.347
現実的な—空想好き	-0.135	0.529	0.231
行儀のよい—行儀の悪い	0.227	0.489	0.289
たのもし—たよりない	0.199	0.105	0.784
たくましい—弱々しい	0.243	0.125	0.744
強気な—弱気な	0.254	0.043	0.703
理解力のある—理解力のない	0.121	0.361	0.557
伝達力のある—伝達力のない	0.032	0.301	0.537
因子寄与	5.380	4.639	2.904
寄与率	19.215	35.784	46.157

(3) 子ども観・保育観の変容

4月(入学直後・1年次実習前)、2010年7月(1年次実習後)、2011年7月(2年次実習後)で比較した結果、有意差が見られなかった項目もあったが、どのような場面でも保育者の援助が「つねに必要」というのではなく、「設問11 好きな遊びの時間の子どもに対して、保育者はどのようにあるべきだと思いますか」「設問13 年長児のA君は設定保育の時間に何もしていません。この時、あなたはどのようにしますか。」「設問18 集まりの時間に、B君がひとり、外で遊んでいて入ってきません。このときあなたはどのようにしますか。」など、子どもの主体性、自主性を重んじた援助が必要だと伺えるような項目において、たった1回の観察・参加実習であってもその前後で差が明らかだった。1年前期の早い段階での実習は有効だといえる。また、「設問1 あなたは卒業後、保育者になることを希望しますか」「設問2 自分自身で子どもの頃に遊んだ遊びの中で、今の子どもたちに伝えたいと思うものがありますか」など、保育職に対する意欲が低下しているのは、「自分を知る」という結果と解釈していいだろうか。

設問 1 あなたは卒業後、保育者になることを希望しますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
生涯の仕事としたい	55.4%	44.6%	27.2%
結婚あるいは出産までは勤めたい	41.3%	51.1%	58.7%
保育者以外の仕事につきたい	2.2%	4.3%	12.0%
就職したくない	1.1%	0.0%	2.2%
$\chi^2(6)=24.48$	P<.01		

設問 2 自分自身で子どもの頃に遊んだ遊びの中で、今の子どもたちに伝えたいと思うものがありますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
たくさんある	45.7%	43.5%	25.0%
すこしはある	45.7%	51.1%	72.8%
あまりない	8.7%	5.4%	2.2%
$\chi^2(4)=16.60$	P<.01		

設問 3 保育者も人間である以上、子どもに対して好き嫌いがあってもやむを得ないと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
思う	51.1%	43.5%	38.0%
思わない	48.9%	56.5%	62.0%
$\chi^2(2)=3.20$			

設問 4 あのような保育者になりたいという目標となるような保育者が具体的に(歴史上、身近に)いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
いる	73.9%	80.4%	80.4%
いない	26.1%	19.6%	19.6%
$\chi^2(2)=1.58$			

設問 5 保育者が方言を使うと子どもとの親近感を高めることができると思いますが、保育の中では方言はあまり使わないほうがよいと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
方言を使うことはできるだけ避けた方がよい	44.6%	56.5%	50.0%
むしろ方言を積極的に使った方がよい	55.4%	43.5%	50.0%
$\chi^2(2)=2.63$			

設問 6 あなたは友達に比べて保育に関する本(単行本)を読みますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
よく読むほうである	2.2%	2.2%	0.0%
どちらかといえば読むほうである	17.4%	19.6%	16.3%
あまり読まないほうである	69.6%	65.2%	71.7%
全く読まない	10.9%	13.0%	12.0%
$\chi^2(6)=2.76$			

設問 7 あなたは、保育について友達と話し合いをしますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
よく話し合う	12.0%	21.7%	25.0%
ときどき話し合う	68.5%	66.3%	65.2%
あまり話し合わない	19.6%	9.8%	8.7%
全く話し合わない	0.0%	2.2%	1.1%
$\chi^2(6)=11.61+$	P<.10		

設問 8 あなたは、自分の保育について、他の人たちから意見を言われることをどう思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
腹がたつようなことでもどんどん言ってほしい	87.0%	87.0%	88.0%
あまり言ってほしくない	13.0%	13.0%	12.0%
$\chi^2(2)=0.65$			

設問 9 あなたは、子どもが文字に関心を示し始めたら、文字の読み方や書き方をクラス一斉に教える必要があると思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
思う	46.7%	37.0%	17.4%
思わない	53.3%	63.0%	82.6%
$\chi^2(2)=18.39$	P<.01		

設問 10 保育の中で、子ども同士を競争させるような場面が必要だと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
思う	78.3%	84.8%	68.5%
思わない	21.7%	15.2%	31.5%
$\chi^2(2)=7.34$	P<.05		

設問 11 好きな遊びの時間の子どもに対して、保育者はどのようにあるべきだと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
保育者ももっとかかわったほうがいいと思う	54.3%	23.9%	26.1%
保育者はあまりかかわらないほうがいいと思う	45.7%	76.1%	73.9%
$\chi^2(2)=23.38$	P<.01		

設問 12 入園当初に、子どもにまもらせようと思う園のルール(片づけなど)を子どもたちに最初に教えた方がいいと思いますか、それとも問題が起きたときに指導した方がいいと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
前もって指導しておいたほうがいい	83.7%	83.7%	83.7%
問題が起きたときに指導したほうがいい	16.3%	16.3%	16.3%
$\chi^2(2)=0.00$			

設問 13 年長児の A 君は設定保育の時間に何もしていません。この時、あなたはどうしますか。

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
何かを始めるまで働きかける	39.1%	7.6%	5.4%
いちおう働きかけてはみるが無理じいはいはしない	60.9%	92.4%	94.6%
$\chi^2(2)=45.55$	P<.01		

設問 14 ある遊びをした後、遊び道具を片付けずに次々と別の遊びをする子どもをあなたはどうしますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
道具をきちんと片付けてから次の遊びをするようにいう	92.4%	82.6%	79.3%
遊びの最後にまとめて片づけるようにいう	7.6%	17.4%	20.7%
$\chi^2(2)=6.57$	P<.05		

設問 15 子どもたちの遊びが盛り上がっている最中に昼食の時間がきました。そんなとき、どうしますか。

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
そのまま遊びを続けさせ食事の時間を遅らせる	4.3%	22.8%	56.5%
食事の時間はきちんと守らせる	95.7%	77.2%	43.5%
$\chi^2(2)=64.02$	P<.01		

設問 16 保育者の話を聞くときは、静かに聞いてさえいれば、姿勢などについて特に注意を与えるようなことはないという考えをどう思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
この考えに賛成である	14.1%	30.4%	26.1%
やはり姿勢も正して聞くほうがよいと思う	85.9%	69.6%	73.9%
$\chi^2(2)=7.28$	P<.05		

設問 17 少々危ないと思われることでも、子どもたちがしたいと言ったらさせますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
させる	32.6%	53.3%	72.8%
させない	67.4%	46.7%	27.2%
$\chi^2(2)=29.87$	P<.01		

設問 18 集まりの時間に、B 君がひとり、外で遊んでいて入ってきません。このときあなたはどうしますか。

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
そのまましておく	1.1%	2.2%	3.3%
呼びに行くが、入ってこなければそのまましておく	40.2%	82.6%	93.5%
厳しく言っても入らせる	58.7%	15.2%	3.3%
$\chi^2(4)=82.08$	P<.01		

設問 19 食事で、子どもが自分の嫌いなものを残したとき、どのようにしますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
そのまま残させる	0.0%	0.0%	1.1%
食べるように言うが、無理じいはいはしない	13.0%	39.1%	40.2%
少しだけでも食べさせる	80.4%	60.9%	56.5%
残さないように全部食べさせる	6.5%	0.0%	2.2%
$\chi^2(6)=27.67$	P<.01		

設問 20 年長児の C 君は自分のやりたいことを見つけ、それに熱中し、いつもひとりで遊んでいます。この C 君をあなたはどう思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
別にかまわない	54.3%	59.8%	60.9%
いくら遊んでも友達と交わらなければいけないと思う	45.7%	40.2%	39.1%
$\chi^2(2)=0.92$			

設問 21 保育に関する研究会、学習会(休日の開催、有料でも)進んで参加したいと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
思う	67.4%	65.2%	78.3%
思わない	32.6%	34.8%	21.7%
$\chi^2(2)=4.30$			

設問 22 子どもが好きなだけでは保育者にはなれないと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
思う	83.7%	85.9%	90.2%
思わない	16.3%	14.1%	9.8%
$\chi^2(2)=1.75$			

設問 23 子どもの遊具として、保育にコンピュータは必要だと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
思う	16.3%	19.6%	23.9%
思わない	83.7%	80.4%	76.1%
$\chi^2(2)=1.68$			

設問 24 ディズニーランドのようなアミューズメント施設は、保育の環境になるとと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
思う	63.0%	58.7%	43.5%
思わない	37.0%	41.3%	56.5%
$\chi^2(2)=7.85$	$P<.05$		

設問 25 幼稚園は、保育所に比べて、「教育」が多いと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
思う	85.9%	68.5%	67.4%
思わない	14.1%	31.5%	32.6%
$\chi^2(2)=10.26$	$P<.01$		

設問 26 最近の子どもたちは、自分の子ども時代に比べて、あまり遊んでいないと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
思う	70.7%	52.2%	63.0%
思わない	29.3%	47.8%	37.0%
$\chi^2(2)=6.73$	$P<.05$		

設問 27 一般的に学力低下が言われているので、いわゆる「ゆとり」教育は見直すべきだと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
思う	67.4%	53.3%	60.9%
思わない	32.6%	46.7%	39.1%
$\chi^2(2)=3.85$			

設問 28 学級崩壊や小1プロブレムが言われているので、幼稚園や保育園で「もっとしつけ」をすべきだと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
思う	75.0%	68.5%	40.2%
思わない	25.0%	31.5%	59.8%
$\chi^2(2)=26.50$	$P<.01$		

設問 29 戦いごっこや怪獣ごっこは、けんかやけがのもとになるから、できるだけやめさせたほうがよいと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
思う	6.5%	9.8%	6.5%
思わない	93.5%	90.2%	93.5%
$\chi^2(2)=0.93$			

設問 30 戦争や平和教育の絵本を読み聞かせるのは、どの時期ぐらいが適当だと思いますか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
3歳(年少)未満から	5.4%	14.1%	18.5%
4歳(年中)ごろから	13.0%	19.6%	22.8%
5歳(年長)ごろから	52.2%	40.2%	44.6%
小学生になってからでよい	29.3%	26.1%	14.1%
$\chi^2(6)=15.44$	$P<.01$		

設問 31 「三匹のこぶた」の話には、こぶたが狼に食べられる話と食べられない話がありますが、あなたはどちらを読み聞かせたいですか

	1年生4月	1年生7月	2年生7月
こぶたが狼に食べられる話のほう	39.1%	44.6%	59.8%
こぶたが狼に食べられない話のほう	60.9%	55.4%	40.2%
$\chi^2(2)=8.45$	$P<.05$		

(4) 子どもに対するイメージと子ども観・保育観との関係

先にみた子ども観・保育観のイメージと子どもに対するイメージとは関連があるのだろうか。子ども観・保育観に関する項目の回答別に、因子分析(表2)による因子得点を従属変数として、平均値の差を比較してみた。

その結果、保育職を「生涯の仕事としたい」「理想の保育者がいる」「研究会に参加したい」と積極的に考えている学生はそうでない学生よりも子どもに対する<明朗快活>なイメージを強く持っていることが示され、同時に「子どもに対して好き嫌いがあるのはならない」「子ども同士を競争させるような場面が必要と思っていない」という意識であった。

子どもの<自己中心>的なイメージが強いと、「子どもに対して好き嫌いがあってもやむを得ない」「幼稚園は教育的だ」と思っていたり、「道具をきちんと片づけてから次の遊びをするように言ったり」「保育者の話を聞くとときは姿勢を正して聞かせたり」「集まりの時間に厳しく言っても入らせたり」といった指導性が強いほうがよいと思っ

表4 子ども観・保育観の違いによる子どものイメージの因子得点の平均値

**p<.01 *p<.05

	明朗快活	自己中心	自立
設問 1 あなたは卒業後、保育者になることを希望しますか	F=4.524*		
生涯の仕事としたい	0.165	0.028	0.440
結婚あるいは出産までは勤めたい	-0.067	-0.210	-0.260
保育者以外の仕事につきたい	-0.501	-0.150	-0.750
設問 3 子どもに対して好き嫌いがあってもやむを得ない	F=4.049*	F=9.238**	
思う	-0.135	0.203	0.088
思わない	0.107	-0.160	-0.069
設問 10 保育の中で、子ども同士を競争させるような場面が必要	F=4.380*		
思う	-0.068	0.033	0.024
思わない	0.229	-0.113	-0.083
設問 14 ある遊びをした後、遊び道具を片付けずに次々と別の遊びをする子ども		F=5.829*	
道具をきちんと片づけてから次の遊び	0.007	0.061	0.012
遊びの最後にまとめて片づける	-0.390	-0.340	-0.069
設問 4 あのような保育者になりたいという目標となるような保育者	F=4.608*		
いる	0.068	-0.350	0.012
いない	-0.244	0.125	-0.044
設問 16 保育者の話を聞くとときは姿勢などについて注意を与えるようなことはない		F=8.153**	
この考えに賛成である	0.160	-0.306	-0.026
やはり姿勢も正して聞くほうがよいと思う	-0.049	0.094	0.008
設問 18 集まりの時間に、B君がひとり、外で遊んでいて入ってきません。		F=9.597**	
そのままにしておく	0.319	0.132	0.137
呼びに行くが、入ってこなければそのままにしておく	-0.001	-0.157	-0.040
厳しく言っても入らせる	-0.025	0.429	0.101
設問 21 保育に関する研究会、学習会に進んで参加したい	F=5.954*		
思う	0.095	-0.017	-0.041
思わない	-0.224	0.041	0.098
設問 25 幼稚園は、保育所に比べて、「教育」が多いと思いますか		F=5.391*	
思う	-0.056	0.082	0.002
思わない	0.157	-0.233	-0.007
設問 29 戦いごっこや怪獣ごっこは、けんかのもとになるからやめさせたほうがよい	F=5.022*		
思う	-0.467	-0.332	0.188
思わない	0.038	0.027	-0.016

(4) 子どもに対するイメージの4つのタイプ

子どもに対する「明朗快活」と「自己中心」のイメージから4つの特徴に分類できると考えられる(図1)。つまり明朗快活性が正、自己中心性が負のAに属するタイプは「子どもは明るくて従順だ」というイメージ、Bは「子どもは明るい反面、自己中心性が強い」、Cは「子どもはおとなしく従順だ」という消極的なイメージ、Dは「子どもは自己中心性が強い」というイメージである。この4つのタイプがあると仮定した場合、実習前後の一人一人の変化を示すと同時に、「幼稚園実習を体験して何か変化があった項目はあったか」の自由記述の回答を見ることにした(表5)。その結果、子どもに対するイメージが実習前後で変化する場合と変化しない場合があること、自由記述から子ども観・保育観の形成において実習の影響は大きいということなどが明らかになった。

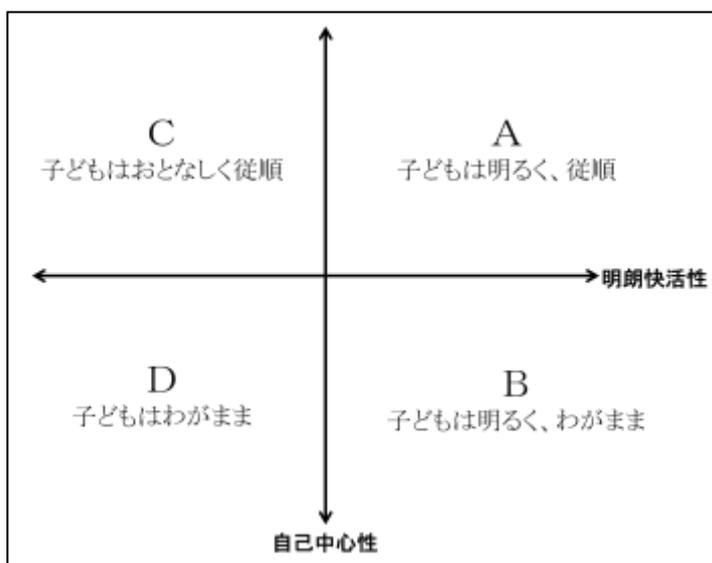


図1 子どもイメージの4つのタイプ

表5 幼稚園実習を体験後の変化の自由記述(一部抜粋)

I	II	III	1年次実習後	2年次実習後
A	A	A	幼稚園実習に行くまでは、子どもに無理を言っても何かをやらせたほうが良いと思っていました。しかし、実際実習をすることで、子どもの思うままにし、保育者は働きかけ、様子を見るほうが子どものためになることが分かりました。子どもが真剣に物と向き合っている中を邪魔してはいけないと気づきました。	どの授業でもですが子どもの姿を考えながら先生の話をお聴きになりました。また、私自身が保育者として働くようになったときに“こんなことしたいな”と具体的に保育の場面をイメージするようになりました。
A	A	B	変化した点は特にないが、保育者をより強く目指そうと思った。	今までも、保育者は子どもが好きだけではなれないと考えていましたが、今回の実習を通して、さらにつよく感じました。指導をするうえで、子どもたちが言うことを聞かないことは少なくありません。毎日の保育現場で自分の保育技術が問われる中で、どれだけ冷静に子どもたちに愛情を持った接し方ができるか不安になります。しかしどんな時でも子どもたちの笑顔に囲まれて生活できる保育者になりたいと感じました。
A	C	C	一人何か違うことをしていても、あまり無理にみんなと同じことをさせないほうが良いと思うようになった。	子どもの気持ちを受け止めることが大切で、子どもが何かしてはならないことをした時には、気づかせることが大切だと感じました。

A	D	D	子どもは大人のことをよく見ているのだということがわかり、自分自身が常に色々な人に見られているという自覚をもち生活するようになった。	集りの時間はみんなが参加するように参加してない子のところへしつこく話しかけていたけど、子どもにはそれぞれ参加の仕方があって、すぐにできる子もいれば最初は見るだけでも楽しいと思ったら自然とやり始める子もいるのだと思いました。
B	A	A	自分が幼児期のときより子どもたちは外で活発に遊べていないと思っていたが、とても元気よく遊んでいて、イメージが変わった。	実習をして、子どもの言動の意図を考えると、普段の子どもの生活の様子を見ることがどれだけ大切なのかを学べた。普段から子どものことをよく観察しておくことで、朝来たときに子どもがいつもと様子が違うとか体調なども事前に気をつけることができる。
B	A	D	少々危ないと思ったことでも、子どもたちがしたいと思ったらさせないと実習前は考えていたが、実習に行って保育者の動きを見て少々危ないことでもまずなんでも体験してみて自分自身の身体でこれは危ないんだと体験することが大切だと感じました。また、子どもたちの遊びを止めたら遊びが広がらなく、子どもたちのためにならないので少々危ない遊びをしていたら保育者は近くで見守る援助をするべきだと思いました。	どんな時でも子どもを第一に考え、自由遊びのときは保育者も子どもと精一杯遊び、でも入りすぎず、子どもが遊びを見つけられ遊びされるよう援助することを学びました。そして、子どもが喧嘩した時は次の日元気に登園できるよう降園するまでに仲直りができるよう援助することを学びました。
B	B	A	自分自身で小さい時に経験した遊びを今のこどもたちに伝えたい。こどもたちが遊びに夢中になっていたら昼ご飯の時間を遅らせてもよい。	こどもの気持ちを大切にしてその時の状況に応じて臨機応変にできるようになりたいです。一人ひとりをしつかり見つめていける保育者になりたいです。
B	B	B	無理矢理にさせるとか、そういう考えはなくなった。でも守るべきルールは守るなど、きちんとすべきところはさせなくてはいけないと思った。	子どもに対して「むりじいさせる」ということは、しないようになりました。呼びかけてはみますが、参加したくないようなら、「参加できるように」もつと環境構成を工夫したり、言葉がけをしたりということをしたらしいということがこれまでの実習を通して学べたと思います。子ども主体ということも大切にしたいですが、やっぱり、するときはするということを子どもたちは分かっているの、子どもが成長していけるような保育ができるようになりたいです。また、幼稚園は「勉強」をしているというイメージがあったのですが、実習をしてみて、勉強している姿を見ることがほとんどなく、「遊びを通して」学ぶという姿を見たと思います。
B	C	A	皆の輪に入ろうとしない子どもは、無理強いをせずに、自ら進んで入ってくるまで見守ることも大切である、という点が変わった。	遊びが盛り上がっているときでも、食事の時間は守らせないといけないと思っていたけど、せっかくだと楽しんでいるのに遊びを中断させるのは良くないと考えるようになった。食事の時間を遅らせても、他のところで時間は調整できるので、子どもの活動を大切にしたいと思うようになった。
B	D	B	私は保育園児実習に参加したことがありますが、幼稚園実習は初めてでした。久しぶりに子どもと接したので最初は戸惑いましたが、先生の対応の仕方や子どもの	指導実習をしてやっぱり保育士は大変だなと思いました。子どもは大好きだけど指導という立場ではなく、どうしても「遊びのお姉さん」として関わることしかできなく

			動きを観察して保育者の働きは簡単だと思っていたけど、実習するにつれて大変な仕事だと知りました。もっと勉強して次の実習は改善点を直していけたらいいと思います。	て保育者に向いてないのではないのかと改めて考えられました。
C	C	A	子どもたちがどんな遊びがすきか観察していると少し分かった。先生の言葉遣いや行動は私もこの二年間でいろいろなことをやろうと思った。	子どもが少しずつ笑顔になり信頼関係ができたなと思った！！
C	C	A	以前より保育の仕方について知ることができた。子どもの接し方が分かった。	全日指導を体験して、1日の保育の流れや時間配分の大切さを感じた。指導をするときの子どもたちへの関わり方が前回と少し変化したと思う。
C	C	C	子どもは遊びを見つけるのが得意だと気づいた	子どもは先生の言うことを聞くのは、最初は先生に怒られるのがいやだからと思っていたけど実習をしてみて、信頼関係があるからだと思った。子どものとる行動(暴力、暴言など)も、背景があるからなんだと思うようになった。
D	A	A	ひとりで遊んでいる子を実際見たら友達と遊ぶ楽しさを伝えたいと思いました。	前の時と少し変わっているのではないかと思います。今回の実習で子どもたちはそれぞれ個性があり、声かけの仕方もそれぞれ変えていくことが大切だということに気づけることができました。今回子どもとかかわることで自分の指導の仕方が少し変わることができたかなと思いました。
D	C	D	実際に現場に出て子どもに接すると、頭でわかっても言葉にならないことがたくさんあったり、子ども一人一人で成長も違ったので、もっと授業を大切にしたり、自分でも学習して、次の実習に望みたいです。	今までも意識していたが、子ども主体の保育を意識するようになった。全日指導をして子どもは興味がないことは進んでせず、無理やり参加させているような感じになってしまったので、そう考えた。
D	D	A	保育士の仕事を生涯の仕事にしたいと、実習に行かせていただいてより思うようになりました。また実習に行く前は、幼稚園は保育園に比べ、時計の読み方、ひらがな数字を書く練習などの「教育」が多いと思っていましたが、実習に行き子どもと保育者の方と関わる中で時計の読み方などの教育はあまり求めていると思いました。	子どもとの接し方が変わりました。今までは、子どもに聞かそう聞かそうとしていましたが、今回の実習をえて実習生の話や活動や絵本に興味をなかなか示さない子どもに対して、どうしたら興味もてるだろう？なにがいやなのだろう？今は何に集中してるのかな？と考えてその子どもと接しようと思いました。
D	D	D	幼稚園の頃から、しつけなどの教育はした方が良くと思いました。	知識の幅が増えたと感じる。また、初めての全日指導をして、子どもと沢山の時間関わることが出来、子どもの良いところを多く知ることが出来た。

4. まとめ

以上の結果、子どもに対するイメージや子ども観・保育観が実習前後で変容することが調査結果によって明らかになった。たった3日間の観察・参加実習の経験だけでも大きく子ども観は変化する。だとすれば、中学や高等学校における保育体験は、職場体験や家庭科の学習のためだけでなく、子育て支援の一環としても有効なのではないだろうか。全日指導などじっくりと子どもとかかわる実習では、いい方向にもマイナスの方向にも、もっと子ども観、保育観が変容することも自由記述から明らかになった。

もちろん実際には、アンケート調査のように単純ではなく、年齢、時期、時間などの諸々の状況や一人一人の子どもによって保育者の援助や対応の仕方は一つではない。しかし、授業や実習などによって、いわゆるそうした正解を学ぶのではなく、肯定的な子ども観に基づいた臨機応変な柔軟な構えなどが培われているといえるだろう。

したがって、本調査の結果を見る限り、子ども観・保育観などの「態度・志向性」は、授業や実習などによって教育可能といえるのではないだろうか。そうした視点で保育者養成としての系統的なカリキュラムを構成していくことは重要である。例えば「子どもが好き」という入学時に多い保育者志望動機を「子どもの最善の利益を尊重する」レベルにまで引き上げる責任が保育者養成校にはあると考える。また教職課程において必須の「履修カルテ」のように、事前事後学習を含めた学習の振り返りや自己評価を記録することが求められているので、学生が自己の子ども観や保育観を客観的に分析したり、大学としてはIR (Institutional Research)に基づいた個々の学生に応じた、きめ細かな指導を行ったりすることも必要だろう。

子ども観・保育観がどのように形成されるかを明らかにするためには、国の内外を含めて複数の大学での調査が必要だろう。また、保育者養成だけではなく、子育て支援などにも汎用されると考えられるので、対象を高校生(の職場体験)や保護者などに広げて研究を継続していきたい。

<引用・参考文献>

遠藤芳子・後藤順子「小児看護学(幼稚園)実習の有効性の検討—実習前後の看護学生の子ども観と実習のとらえ方の変化から—」『山形保健医療研究』第7号、2004年、pp.33-44。

星野修一・日瀨淳子・吉田圭吾「大学生における子ども観に関する一考察」『神戸大学大学院人間発達研究紀要』第2巻、第1号、2008年、pp.33-42。

森楸・大元千種・西田忠男・植田ひとみ「幼児教育における指導法と保育イデオロギー」『広島大学教育学部紀要』第1部、第33号、1984年、pp.87-96。

森楸・大元千種・植田ひとみ・西田忠男「保育学生のBelief System」『広島大学教育学部紀要』第1部、第34号、1985年、pp.153-163。

森楸・植田ひとみ・大元千種・西田忠男・湯川秀樹「保育者の指導意識の比較—経験・意欲・指導タイプ別考察—」『幼年教育研究年報』第11巻、1986年、pp.13-23。

大滝まり子「教育大生の保育者観、子ども観」『北海道文教大学紀要』第28号、2004年、pp.105-114。

岡田恵子「医療保育科学生の保育所実習前後の子どもイメージ、心理社会的発達の変化とこれらの関連性」『川崎医療福祉学会誌』Vol.16 No.2、2006年、pp.377-384。

谷口恵美子・長谷川桂子・石井康子・泊祐子・西田倫子・豊永奈緒美「子どもと養育者の継続的観察による学生の学習成果」『岐阜県立看護大学紀要』第8巻1号、2007年、pp.19-24。

吉田道雄・佐藤静一「教育実習生の児童に対する認知の変化—実習前、実習中、実習後の「子ども観」の変化—」『日本教育工学雑誌』15(2)、1991年、pp.93-99。

付記

本日の発表は、日本子ども社会学会第19回大会 2012年6月30日(土)(於:國學院大學)で「保育学生の子ども観の変容に関する調査研究」の発表レジュメを加筆・修正したものである。